俗三教裸話 全

159.
M696z

国立国会図書館　タイトル『俗三教裸話 : 2巻』 請求記号 159-M696z

ガラス使用

159 M696z

帝国図書館蔵

溝口先生著

三教裸話

浪華 書林 宗文堂藏

国立国会図書館 29.7.22

336372

仏こゝろ深信有
朋友来て
法ついしん。
ゆうきめ
ゆうきめ
ゆうきめ

の事に立ち
ちまち者婚もし
急ぎ始めざし
の為解く。
何も。如何
無義なるし
すり。

極楽浄土
明くまで。
有ること。
無なる世界
あんすん
我こ。
心信じ
を成じ。

為面白
時なべ
小男
ものと
ざ。
夏こ
て。

まげ
もし
才覚
あるよ
ぬ。
ぬ。
教。
ぬ。

国立国会図書館　タイトル『俗三教裸話 : 2巻』　請求記号 159-M696z
ガラス使用

なるべ大まかの
高麗と和国秋下旬
海口敬明書

敬明
敬明之印

俗三教裸話 天

溝口敬明輯

敬明之印

夫は人の生まれを観ずるに。五
欲ふかく。ふかく入て。神道とさとりたるふ
もとなれども。儒道とさとりたるふもとなれども。
仏道とさとりたるふもとなれども。多くは仏
法なりこれども。真の仏とはぞふ
うりこ月日をわすれたる。なれ
ともとなぬ愛の浮世。貴も賤も生死り

国立国会図書館　タイトル『俗三教裸話 : 2巻』　請求記号 159-M696z
ガラス使用

なるて八百万なる一日もとくやく生死の掌
とさとりてあるゝ一日見出さるゝ事をいとなゝ
れたるものそゞ。そのあり様海鼠の
ゝ多。ゆりこゝ。ゆりこなりひなりとゝ
ゞなりこゝ。ゆりこゝ。沖中にてゞひし永の
こゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。
言せ一内にぱ人とまゝゞれゞ月行巻立て
老こなれゞゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。
ものゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。老ゝ

ゝて道とゝゝに取ゝさゝるゝ。ゆりこゝ。
小道とゝて夕小死ゝゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。
ゝゝゝゝ。道とゝゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。
なるとゝゝゞ。大猫の行乃覺悟なゝゝ
果ゝゝゝ。一生とゝゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。
ゝゝゞゞ。西方に極楽淨土ゝゝて。淨土の
向ゝゝゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。西方十方
信ゝゝゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。
又行ゝゝゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。ゆりこゝ。

336372

国立国会図書館　タイトル『俗三教裸話 : 2巻』 請求記号 159-M696z
ガラス使用

なんぢ行のまさまなる常のおもとのもとうてゐ方に極楽浄土ちうことゝるまをと。
ゝうくゐるゐもとゝぐ。一日ゝこうかゝ
書せし内にぱ多うて生を終るとゝ乃
多し。こゝ。ふのうゐ極楽ぢやや。
第四の生たるゝ人ゝ生れゝ人への道をゝう
ざれハゝられしとゝぱゝくらいなりゝ
なり
○西方十万億土に極楽浄土ちうこゝんの教を

のゝひゝのまて。惟喜ときゝとゝるゐなり。是
ハ西方ゐ極ゝ西ゐまでゐ十万億このゝひゝすし。
日月ゐに生じて西ゐ極ゝ。これ凡人ゐ月ち
ゐ見ゐすゝそ。これも純粋ゝゝるゐなり。
惟じて生るゝゝのハゐ式氣をうけてゝ生じ
ゝ極ゝゝゝのなり。東ハ春ゐ陽の始なり。
西ハ秋ゐ陰の始なり。陽ゐ生じ陰ゐ極
なり。極ゐ西方極楽浄土ちうゝゝたるゝゝの。
人死ゝて一年後のゐ魂ゐ西方極楽浄土

いつるものなり。年こ見ゆまつてよろこぶるあり
よ。老ハ衰して赤なるゆへ茶あるいハ生れ付なり。
夏ハ南にして大なるゆへ。その生じる茶あるを
生育なり　秋ハ金にして白なるゆへ茶物收れ
付なり。これ皆赤に生てあるに絡るのみなり。
みハ水にて水なるゆへ冷るくなり。これ月あ
る收りかれ〳〵。又赤方にて生るなり。これを
寒ゆる時ハ。西方極楽浄土へいつるものと悟る
べきなり。もしまた日本東にて湯の路あ

なるゆへ。その水に生る人。ぜと考んで死
と悟ぶ。人ハ收る多して言ハかし。我ハ
兄弟にても。死られバ書るハのもなぬいん
や他人の死せるハさきなくなりなり。こ
日本の人の死ハ。ハ月ぶ水にて流
るなり　天竺ハ。ハ月ぶ流なるゆへ。ぜ和の
いさぎよきをこのひかりして。唯死を
言ハ。茶。故ハ仏道にて。死のうへを
よと考へこひて無常と覚ぜしめ。欲と

うしてしてゝ善道へうちびきのうちこれ
水土に趣るゝの方便ハ義なりたゝくていど
日本ハ示して日ハ出る国なるゆへ世ゝ釋
歳のゝ乃めし。中華ハ世界ハ中国して日中
なるゆへ。ゆゑ中ゝ拾象のゝ乃めし天竺ハ
あして日の没る方ゆへ古拾象ゝ乃
人のめし。ゝのゝくそのゝ水土にもゝるゝ
ゝゆへ。その水土に趣る義なるゝなり
いゝゝ秋る日本ハ出ゝゝ

ゝく義なゝゝ。その世ハ日本人ハ。ゝて八
天竺のゝ乃めゝなるゝゝ。ゝ拾象ゝ仏法ハ
昌ゝるゝゝゝなゝゝ没ゝ国ゝ方便ゝ
とゝゝ。世ゝて仏教ゝ宗ゝ。ゝゝなゝる
ゝゝの。死して西方極楽浄土へゝて
らゝゝこゝたるゝのなゝゝ義八
法たのゝ人ハ西乃月なゝゝ
ゝゝれ称ゝゝゝゝゝ
世界のゝゝゝゝ考ゝ。後生ゝ西曾

清淨の比丘涅槃にいるべし。彼戒の信心徹底して渡せ
ざるべからず。又云ふ。いまだ塊率と雖もこれを
黙更に深き。いまだ毋の胎を出ざるに。度人
已まれりぬしいまする。これ皆同一
なり。ようく悟るべきなり
やうに思ふ。その変化ハ
生れぬる義乃又ひとしき
法のごとくなり。未生の又ハ
元乃ごとくなり。ようくたしこ

すハいるべし。何もなき事にして。唯見て事ハ
無りなり。見ることもせぬ事に貴を知てハ
さるべからざるなり
あむしゃくりばりばりとて
うるぬむしゃくぬゆくを
唯目おに妻夏秋冬の行住坐臥
月月の時をたゞ見ること。
ごとくなり。こゝ義ごとく
て学ぶべきなり。人小天地なりに行人のわりハ

なるこゝろなり。

○南無阿弥陀佛とは。南無は帰命。こゝろなり。阿弥陀とは。梵語なり。梵語は印度の言葉なり。

なるゆゑに。ゆゑなくして。ゆゑなくして。ゆゑなくして。ゆゑなくして。ゆゑなくして。ゆゑなくして。

なり。儒道とは。孔子の道なり。仏道とは。釈尊の教法なり。

立命こゝろなり。妙法蓮華経とは。色心不二の法なり。

浄土宗とは。帰命盡十方無碍光如来なり。名号

かゝりたれども皆一佛なり。十方世界の諸善

薩。八万法門衆皆是阿弥陀佛なり。喜

此名号をとなへれば。善悪の経文も何もいらず。

唯名号をとなへるばかりなり。禅家とは本来の

面目なり。かゝるなるゆゑに。

こゝろをさとれば。さとれば。

らひとなり。

さとりなり。かゝるゆゑに。

ゆゑなり。これをもつてこゝろ。

仏祖とは。善悪の境界をはなれて。真の仏を

ぞんぜんぐわくこれをさとりてあんじんを
と見るまことのそれ善さらにけうり
さいなり。唯行ごとく唱つる名佛
みと益なさみいはして。真の法陀と唱る
ものの方便無智なるものよ。名号
とこなくさをの八。見聞積功の為出方便の利益
なり。真の法陀ハもつぱらとおさ
て南無阿弥陀佛。と唱つる時ハ。れ名に称
の道ばかりをもつて。真の法陀と唱るハの

ごとくなるものもいるるなり。真の佛をもつぱら
して。
行ずるばかりまことの法ハ
かりにてけるのさに
もののごとく。唯行ごとなるべし。
唱つる名佛と。益なきみなるべし。
費なり。真の法陀をさつぱらとおもつぱ
なり。多く式経くなりこゝとぞ。
まる示ハ法陀をさつぱらとおもつぱ

故小八方諸聖教皆是阿陀こしんのひとなり。法華聖人。親鸞聖人などは阿陀をさしてのゝたまはれたる名号なりこゝろなり。

まことにこゝろをすてゝその名号を稱し。ひとへに他宗ことにはぶきまる所は阿陀をさしてこゝろにとゞまるなり。むくのゝなかゝもとをすてゝ所の行者乃ゝとをすてゝ善法はのこゝろをさすなりどや。阿陀をさしてはゞ足れば佛も。所の四門もこれもしもしてゝ教示別傳不立文字このゝこゝは

なり。日蓮宗ゝて。南無妙法蓮華經の七字ゝ唱ゝてさゝてせーなり。南無阿陀佛と唱法蓮華經。本來の四門も。皆一佛のあゝて。つさゝれどもしもしなり。今ゝ古ゝ世ゝの多くの。後世人の他力ーとなり。中興よ。又ゝまゝるゝこゝゝ。こゝはを海ゝ多くの經ゝ出來ゝるものなりこゝゝ。天竺よゝ文字ゝ教ゝ捨二字ゝのゝでゝゝ。梵字こゝゝ

これなり。釈尊の出生したまひし日本は鷲鶏草葺不合尊治世八十三万六千餘年の。八十三万六千百七拾六年に当て。釈迦大師西天に生れたまひしは。我国の神代のすと考て案じ。こゝを海上に作りし書多くしてこゝに海をなりてたりくなりたるなり。

扨て上代は古しき事はなき道理なり。

仏経などは移文に。後世経論よりも。文章の巧なるものの多きと思ふ。

○今の仏法は天竺より伝へしことを思ふに。真の仏を尊ぶ。ぎりしゆよ。今日の仏法は皆けり。中ごろ禅学とて。さうなくやうにて。居る人の行ひを見るに。勤行して。却て何を学ぶ。ざるものもりと。わたくしまることの多きこれ。考ふ見性成仏せざるゆへなり。ふるのまゝなりとて。ともかく。高慢なるこの目より。仏道はものやうなるものとなりて。それを

なのみあるよ釋尊。達磨小石をなげうつるもの迄。
或は一丈の阿弥陀佛涅槃の量最こわるゝより。一丈の
南無阿弥陀佛と唱へる時は。涅槃の量の最涅槃は減
ずるいとゝもむるゆへ。南無佛と唱へるもの
こゝろをいたして。安んじたなりこれ有る
たゞひとへこれを唱へる無量ちやうなり。
佛は多くは罪をゆるすものゆへ。無人にたゝ
ゆるゆへ。千が七三は
なるゆへ

釋迦といへるものがさいて
うこせのくをもよいをうあ
なぐいへやうなるものなりこれ
皆後世の信心中に養ひやまれるものなり
て。佛のなをけがしたものなり。元一丈の阿弥佛
涅槃の量最こわるゝ。一丈の阿弥陀を指
すして。さのとおくなりこと今日ときみ
らびをふもりて。真の阿弥陀をさとりて。道
よいをうれば。佛ともいへ。

真の法陀とさこりていあるとをすハ法を
ゆゑよ。これとの霊の魂命消ゆ滅そとの
教ゆて。ちも真ハ法陀とさこりたるとのゆ
なり。絶無おのづからけゆ南無妙法蓮華経
人ゆ尊河法陀仏こゆ附ハ絶無と安ん
して。和ふいなきゆゑよ。吾ハとそとていゆの
なりぬしのたゞひのやうて世界ゆ
うたなるわやもりなれバ。もとまま
ゆきなり

又これ仏ゆ弟なり。世俗庚申祭とするゆ
あり。これの祭といふゆ人ゆの後世ゆ立り。去
人の魂と天小苦ゆしゆるに因て。庚
申ハ祭ゆとして魂をゆせバ。その魂
とまゆ居ゆこゆ。これ人ゆとそとて
とそもるに因ゆ無となりて魂と天
ゆ浮まゆ。ゆのゆ不なゆこのゆひ道理也。
猿田彦ハ道祖ふ吾ハ命ゆ、修験
ゆこハ智賢ゆ義なり。何ぞ魂ゆるとの、

唐申ばしたりどてそのの花とまぬるべこや。
ありいぶるのあしさなり。傷ものと事なり
こいとハ。物と淫ぶさまとそなりけり。唐申
の舎ハ道士ハ仏ものと藤
てかゝ毒とかこいり。唐申は
猫国ハ猫ものとまつこいとなり。又金と
金と剣とるのてばくしむ毒さ月なかな
ものと入るおそ者とものとおとてすなりれ
皆陽舎の法なり

○惟心の淨土こいとすさとりをて惟心淨土
といふ者ものけばあるものの多。惟心の淨
土こいとハ者ものとかうするが。惟心淨土
淨土なり。西とあるとも者とあるとも。惟心
ふるりあるの傷の程度あるも
とぐまとよ人乃心のとをいらいす
わしけものとも鬼とおとこ
程度のめしたるとハ仏者とさうと思べ
仏者ととそ。淨振搖さんこおるべ。淨りり

とき〳〵ながけ侍へゆゑんこれ。
唯心のまゝなるにあらさ方へ。
けて。是を〳〵と紙りもてるゆへなさ。
多き濁まゝ。さすの。ぞや。唯心を是へ
と紙うするやうにたとへ。
七に云るの出あるものなり。真の清
大量に不潔至善小ゆるにわりこのまゝを。
唯心の清七已心の陽光ことも仮なるべし。何よ
○けうぶとはゝれみよるをもつぶて

みゝを祭ゝはくしうれりけり
分のもてゝ八面なり。ゆへ皆身にあるとゝ
ゝなり。ゝ〳〵悟るべきなり
○佛とゝ和別八出水氣こゝるなり。太陽
水八陰なり。陰陽の元氣を佛こゝゆへ有
出水氣と和別たるものなりこなり。太八
出らなゝゝ。ゝなるなり。水八
主水の水して或八水をこゝひ。水物こゝゝ
して。ゝを水ゝゝゝゝなり。彩の色ゝゝ

かはる巴こゝろかはらのかりそめあるとき
ゆへよ。大法の門にて俗これを用るなり。故
に小乗と書なり　神道といへ和讃八番とも
ゆこと。の異法なり　佛を親鸞しも
ひく書とゝろかれいはゆる因しえなり
○吾は家自へ宗方宗とゝろれあるといへども。
はぐまる而ハ彼一佛なり。その一佛を親鸞
やうにうけうて道を行也。まりり
道を行とあり。那切勇行りてその

ちびさやうにもりかるとゝて極る而ハ。うの
一佛なり。ゆへ
まものびるかりの道ハ多れご
おれ月をおぐもる
此ものの。道ゝて我家自を他家より高
ーこいひ。家なゝでハ佛ハなりごし
こいゝ。ゝわざれハ。元俗ハ伝のうゝてこゝ。
他家に様ゝて高ゝこ新あ深く伝ゝを親さ
せ至て。彼一佛とこゝてもるゝなり。これを

凡俗ハ元ヨリ我家なりでハ佛ハなりぐ〳〵。これをもつて一生癡にして。真の佛をもつて俗を迷ひの底とこゝろ。何で家自をわんや。家自を知らずハ。真佛をもつぶれとの事として。凡性ハ家自を何といふべきなり。今世の俗ハ皆愛して日々新奢。世界為なり。故に彼一佛をさとるもしいせざるなり。故に彼一佛をさとれるもの稀なり

○奇特といふものなり。西法ハ奇特なり。こ法法大師ののりなり。西法ハ奇特なり。西法大師を名とのなり。法法大師を名とし、奇特あり。しかるに。家初小法を法んぐあて。仙術を学ばしむ。さらして奇特をなせ。ふなひはうせ。西法をとゝ法ものなり。これ方便なり。さ法ほどに奇特をなせ。小奇特なり。このゆへなり。凡俗のこゝなり。奇特よりゆゑ

○天地と父母とまれるものなれば。人義をもつるゆへなるべき者のものなり。天地を父母なるべけ。儒書の西銘よ妻くしのべとをしへ。いや益いれば。天地陰陽なり。父母も陰陽なり。父母の陰陽。天地の陰陽こゝに陰陽あるにあらず。陰陽ハ二種なれば。陰陽ハ父母なるゆへ。天地と父母。父母と父母なるゆへ。つなり。たゞ天地の母と身に具足一立ものなり。干支十干十二支と年に配ス

十干ハ五臓の陰陽ス　甲乙ハ肝の臓の陰陽なり　丙丁ハ心の臓の陰陽ス　戊己ハ脾の臓の陰陽なり　庚辛ハ金ス肺の臓の陰陽なり　壬癸ハ水ス腎の臓の陰陽なり　十二支ハ寅卯ハ肝の府の陰陽　巳午ハ小腸の府の陰陽　申酉ハ大腸の府の陰陽　戌亥ハ膀胱の府の陰陽　辰未ハ胃の府の陰陽なり。臓府ハ人の身の根本。十干ハ人を書き年を

貴ぶ。天地の人こゝろ。もとかゝるものゆえ。
元祖と父母とをそれぞれ。敬ひ尊ぶ事なり。
ちゝはゝ固く親しむ事なり。人なるものゝ父の恩
くらべやまし。親しむ事なり。兄弟の
親しみあれこそ。ものゝたゝるゝ
よわしこそものゝはなさゝるもの。ゆえ
つゝを人のなすこゝろる事なり。人我をたつる
ハ爰の人ふたりゝ。いんやくのゆきさるをひ
ふまこゝろ。ひハ家業のうるはしげふなる事など

いハ人の道ふたゝび。まゝを舎熟ゝ固ゝ
こゝろゝ。人と生れて人の道をもゝざれども。
形ハ人なりこゝろゝ。ふ者熟ふれわざのゝ
まなゝ。人と生れて熟よむらへしハ。
口語さなゝ。ゆえ悪なる者ゝ人を食ゝ
ひ他人こゝれて。口語ゝる其ゝひなるに。
熟ゝ固ゝさ。口語ゝ和ゝゝとゝ
ハ人なゝ。全和小ゝ。ぬ貴ゝる
ものゝ。ゝとゝなゝ。者ゝとゝけゝ

国立国会図書館　タイトル『俗三教裸話 : 2巻』 請求記号 159-M696z
ガラス使用

もてゝ。道ゆとゝいふたゞ人すいなきこゝろにんぎ
居るとの事。それゆへにひたゞひとすぢ
ゆきされおりたり。者をうけざれば。ぶん也
小丸をもくゝして。何程貴おりてもまこの丸ハ
でゝざれとものなり。者をうけざてゆゝ
やうハなり。法藏をなすして考へ屋。報謝
の功かもりて。習ひゆる用もりぬ。ゆゝ
ざはとのとゝる時ハ。くゝおりなり。それと
もちゝとたゞつぞ。道をゝるゝ人の用もり

道をゝるゝざはとのハ知猫も同じやうにゆると
のゆゝなり。有難さ者ゆるすなれ。者ゝ人
ゝらめまこ。ゝゝゝゝ道をゆゝるすれ
ど。一時ゝゝゝ道を得ると真の人ゝなり。
ゝさゝらびゝに関て道ゝ入る時ハ。それか
ゝのたのゝさゝゆゝんや。ゝをゝゝゝ
なるゝのゝいなゝ人ゝとのゝを捨てゝり
とゝゝいゝぎれなり
○芸人世人ハ影法ゝとのなるゆへ。仏ゝハ。ゝゝ

こゝろ安く成仏したるものなり。女人自身もまたかゝる
あさましきやうにおもひ。安きこゝろを得ざるもの
なり。これ女なるゆゑ事なり。是性成仏なる
小男女の差別あるべんや。女は男よりは垢濁なる
もの多きゆゑ垢障を消さんが為方便
なり。天竺は男子も称垢深きゆゑ。女は行
更に垢障多し。俗家の方便なり。女人
そなはらず仏性を得ざるべんや。如人と云ふ別は

水と和かして水湯。水は淫なり。男は湯なるゆ
天なり。女は淫なり。男物は淫湯異ゆゑ
ものなりとゆゑ。ゆゑ。人は天地のこゝろかしも
かゝれば異なるものなり。男女淫湯と云て水と
別せり。かゝる天地なりにあつてけがるものなり。
今女のけがれを見に唯女ばかりなるものと
して義とするゆゑなく。又女ばかりは女の
ふれゆるゆゑなきものの差別なる淫
なり。義をうくるものゆゑなり

きれい。真の道を得ざれ。との美しいこんや義と
変ふることなく。その得ることあり。丈夫姑よ
はたらくべし。苦しさ。苦しさ。人の道を
ちゃうざおとの小辛ちて。婦をいぢり。或は
めしたるものとなりくはひなすやうなる
ものなる者れすなり。女もおいをとうをぞ
しておもおぼゆものなり。こに予がもれる女り
ちゑと因縁なるものとさっりて安ぶ。ちま
なりさ秋月自照いかして見性成佛したるあ

もとり我一つのめとさっりて見性成佛とる
時ぶたのしべき清七もなく。あべき地獄もなく。
のべきべのもの。ぶとしまれて十方世
界佛一切の三寶もなさるなり けだし俗
三界唯一心なり心の外に別に法なし。法の心。
又意識の形よ。安意形辛ハ胸中に海泥。海動ハ
一つの実あるこのの心ひしなり
○彌陀の佛極と接して。種々の佛をのべと
ものなり。これよ生ものをなることを

そのもとをたづねれば。ごくこ教の佛と並
ぶなり。本佛檀ふくの胸の中の佛を表し
たるものなりけるゆゑ。のうちかハ心の
法一体なりしかるにかくちなり。本法華ふくの
ごとくなるものなりこゝに。くのうちにてるハ。
佛こゝにてるふくるものよりなりて。龍宮を
もあれてあるは佛ハなさるものゆへ。かくち
とかりこゝにてるものなり。義ぬがはきく
ものに。ゑんぐりこゝのわ佛堂に佛ハ法華こと

書もこゝにふくなり

○ほとゝぎすのちなりけまこハ和尚ゑ。永く
ゝもゆゝにてぬれて死るこゝそやゝて
ゆるべれこゝるハ。ゆゝに及でゝ行ゝもちず
大物ゝもわれどもてゆげいさせんゝり。ゆゝ
よりぬれて死なんこゝそやゝてるべれ
ゝいふなるべ　大戴礼よ。三十四乃
石に藝なをゝば藝なり。ゆゝ味ゝ
ざれハきちくべ。ゆゝそやぶまざれハ造ち

ひりごとまぬるべーこころ。五十軍ちの心
うごうば伊川軍の後記性をあり。今の人八二十
三十ありさうなれば二十三十。たとひ八九十
ちてさうもあることもそれもなりまるべーこ
ろ。さのようと五人なりこゝとも。今日道を
得る時八今日より吉人なり。道を改よ悔るす
なれこころ

○予が合ひ馬嚴よ生れつき。年四十有
餘ゝ生れとハ。事情ゝ永き年月を道りに。

やさしく世の高き海ちにくらびる。年月
の行すをとりて。悔るに。きゝ。今の所ふり
ぬぐさたる西方時雲形湯をるるもこゝろ
ぬ。国ゝ予が過ぎ年月のすを悔るにつを
て。世人の行ゝ月日を道りしすとくるれ
ぐのちりれ。予よ智者を得主
ようなれ。一日もとやくさらびさを得
てつを極楽ゝて。一生を思ひ出すしあ
さなり

俗三教裸話

海口敬明輯

○天の命これを性といふ。性に率ふこれを道といふ。道を修むるこれを教といふ。

中庸に曰く道は須臾も離るべからざるなり。離るべきは道にあらざるなり。

是故に君子は其の睹ざる所に恐れ其の聞かざる所に戒む。

いつて死して仏となるものやうにおもふ
とのことなり。おほいなることふて。見性成仏
といふが。ちがなりの人よりおのりなるが性
とそなへの性とさとりなるを。見性成仏ごと云
なり。こゝろごゝろ道と学ぶ。目高くそれ
ものかはなさすなり。性とさとりてはこと
ばとりかしこもいとざるなり。真の性
とさとりざるものは。ほくの経くと見て
見なるやうにおもふものなり。これは真仏

とそなへざるものなり。仏経よりなる所
は皆その国。その時その人々にちがひてそれ
ぞれことなるものなり。真の道し
るべきは。教外別伝不立文字のみ
して見性なるなり。はるかに
聞こゆるなり。傷道して真の性を傷
ぶこなり。傷道して真の性を傷
ぶれば是なるすつるべし。是に見性する
人なのでいたりづく。神道にて八智仁勇
といふこれも傷道して八智仁義礼智信の

国立国会図書館　タイトル『俗三教裸話 : 2巻』 請求記号 159-M696z　ガラス使用

仏道(ブツダウ)ハ仁義礼智の名なし。真の(シンノ)道(ミチ)とさとりてハ。万代なり。ゆへ(レゼン)に行(ショウナ)ハ。ことの道(ダウリ)ハ異(メヒ)なるゆへ。かしこ。ハ。ぶんなり。老子の大道(ダイダウ)それ仁義(ジンギ)にあらず。しかるにこのまひ(メヒ)ちなり。むくのこと(ダイ)おこ(ニヘ)ハ書(メンくカキ)ぶくるなり。真の(シンノ)法(ミダ)ハ仏(ブツ)も及ばぬ法(ケンシヤウジヤウブツ)なり。考(カンガ)へ悟(サト)るべきなり。中くに人間(ニンゲン)ならずしてけり。なまりに出のわるくとたづのて

なるもむつかしさのハいふ。ぶんなりてこ義(サンケウ)。ごりふはぐまる。ハ。なり。仏道(ブツダウ)ハ天竺(テンヂク)人の(トコロ)親(キヨウ)を重(ヒ)じて方便(ハウベン)をいふ。欲(ヨクアク)ふかきゆへ。死(シ)して地獄(ヂゴク)へおちるなり。又善(ゼン)とのいふものハ死(シ)して仏(ホトケ)になるこゝろ。書(シヨ)くのハ。地獄(ヂゴク)を。ハ。なれ。悪(アク)を作(ツク)ル。善人(ゼンニン)なり。欲(ヨクアク)ふかきものハ。未来(ミライ)ニテハ又地獄(ゴクラク)浄土(ジヤウド)に生(ウマ)れ。善(センゴン)を作(ツク)ル。ものハ。地獄(ヂゴク)に生(シヤウ)ずるやうに。善(ゼンニン)人なり。これ善人なり。

国立国会図書館　タイトル『俗三教裸話 : 2巻』 請求記号 159-M696z
ガラス使用

ざれども善よりうばくやうの方便なり。今日の義よりつぐれば世間の唯後世のものことおりよく死て佛となりたることは彩色。其の佛をうつぐれば世間のもとたれば。ひとへに佛となるべきことをすることもわるまじ。安きことなり。かりそめ佛となるべし。極楽の人ごとにまいりてもの多し。佛道伝心のことが佛となるべ。儒道伝心のものは死して儒となる道理なり。ちなれども儒道伝心のものの死して儒となることいとまきさうぐれども。死して佛となるものなることもなし。生て佛となるものしてもとなる。儒道神道こいとく。佛道こいとくの道の名なり。天皇天子道をさとりなるものは佛道を得るこいとくものなり。神儒佛ふ道を得るこいとくものなり。神儒佛の名もいとべ。

天道なり。神儒仏の三教は。今いづれも排擯して
ふるはずんば。三教より下日々行はれざるを云
ふなり。儒者なりこいつぐも仏
神道を除るすいこいつぐ。神道者なりこいつ
ぐも儒道仏道を除るすいこいつぐ。仏道也
ふ同じ。三教ともに自分のみ尊び他人のの
なれば。つまり不真の道をさとりて。大道
を行ひたもけとせば。行ぞ。ざるすいこ
んや。仏道とは。儒の人ともに

ものやうにれりふるものなり。これらさるの
ひたぐひなり。俗は出家して俗家をも
て人倫をもなれ。量欲ふ家を居道へ
こらびくものふりてなるものなり。加ふ髪を
きり。三衣を着きり。ほこ衣こいはにそ
る物入も。袈裟のたぐひ。皆日本の服
なり。皆は天竺の服。ちもこいつる中
毒の服なり。のこ三国の服を表記
ゆよ三衣こいなり。俗は色欲をこのま

妻子なくして。貧欲ふかく。意地とりつよく
一思慮を智慮貪欲ふかきものゝごとく小異
はあれども。吾道に入る道理方便のむかへと。
釈尊説き給ふ。法華経にかくと。
して。俗と拘わるなり。俗と拘わるものゝ。
俗は妻子なくして代々子孫お儲し。生々世々
修ぶ。天地なるものなり。仏道そも
俗に今日行ものを。明日はせのよ。
は場せのものなり。方便といひぶかしなり。

唯今日行ものを。道を修し。法を
なし。子孫繁栄なるやうに。斗して
あくまで方便とおもへのひなり。仏道を
後世のものして。俗のことにそむくものは
天地ものは結縁。人はそむくべし
俗を道よいとせんゞ。小妻を捨。色
欲をとゝら。欲貪我慢悪道のゆゑん
文をひいれて。方便とゝ吾道にうらびさ
のものなり。凡仏僧仏にて人。儒道の

性をさとりて人こゝ国にうまれて聖賢
の道をかゝもかゝぐなり
○いる人の門にはれる文をとられば
無位眞人現面門　智恵愚癡通般若
霊光分明輝大千　神鬼何處著手脚
かくのごとくなる文なりいかなるやこと
ばなりしかれども。
魔とは陰るなり。
又あに
物理のまぎれひと

陰るなりとて。
雲しこゝ
生れつきけなげにして。
魔文育なるもの。
もかゝる文とは
物理の
魔とものゝ
よりの
ゝ
ゝ
ゝ

さとりて八何もいふなしり
○ん俗八今日のいとなみ世話しさゆく
多くハ経ハよりと学ハ
ずして。家業の勤をばげ
もの八近道なり変りでハうけず。俗
八多くハ経ハよりと。或八問答とし。
ず多くして。中ハ俗の勤らるゝにたゞ
俗八ものくらハるゝなり。寺八さて俗の
もとより法樹といふ。俗なれバ

問答ハ経ハ多くハ経ハと
ゝして勤るゝといふ。人行を問ふも
ふしこいへバもむしなり。あゞ今の
世ハ人ハ多くハ古りさるハ
ず。仏ハ仏を尊ぶ俗ハ
及ばれでこ初ハ
品何ハなく仏の名号を唱へ一生を
そもの多し。俗ハ多くの書を
ばさハ。ものよりハ

きるいなりこゝろ。それほどに学び識のいるものハ禅なるすなり。亀角おほの乃人のこゝろ。ひとつ道に入やそき義と云るが約要なり。道ハ志ゝ有る人ハ。ひとく聖賢も いとゞこゝろにかゝり。今日のまゝ。ハ。ハ。人と同じやうにて。ゝ。ゝ。せゝやうになりこれすなり。今の天地日月星と聖代の天地日月星あり。亀秋とその時乃亀秋なり。万物ハ亦ゝ。ゝ。ゝ。人のゝ。ゝ。ゝ。

いろばかりにあらずもげちて落ちる
中国のうまをぐるこれ人身とうをあげて。多勢
勢勢のごとく色食の欲よりのこりとどめて。
そもそも嫌ごとにハてざるなり。ごく人実貴族
もの用と多食の欲ハ多さもの多のり。色食
の欲をかしねまにそうさこつより。金銀財宝
をかやくの欲のき多し。多勢勢ハ色食
の欲のこなり。多勢勢の中ものとのぐれ
堕ちる和体のうらまくをたぐざるもの

ひろ人ハ多ものもそ。ちゆなりにれる
ものなりに。人のもらまくの道ふたぐ多
多勢勢ものおりたるもの多。なふ
義えなりて。実の人ある道を堕さるもの
なり。義をらまをざれば人面獣心にて
果ものなり。自ハ人。これ人ども。道を
ちりる用ちハ多勢勢ものおりり
てるものの義なり。はしむべし多べ。
ものおりり人をれて色食の欲をハ

ゆゑに。食物ハみどり色ハ[メ]なるべし
○釈尊出生[シャカソン]のしるしハ晨旦[シンダン]に周異[シウヨウ]して一百
六年。第四の主昭王[シヤウ]二十六年甲寅[キノエ]四月八日よ
ゐて出生[シユツシヤウ]のしるしなり。入滅ハ穆王[ボク]五十三年
壬申[ミヅノエ]に当り二月十五日入滅なり。その比[コロ]ハ五月
を四月とせる故[ユヘ]。二月ハ今の十二月。四月を
今の二月なり。卯の月八日に出生のしるし
なり。入滅ハ世の月[ウシ]十五日なる
ゆゑ今の十二月十五日に当る。されども十二月

ハ。世人[ヨ]の世活[ハシレキ]数[ヨミ]なる故。二月ごろ[ヨ]を幸に今
の二月にし。過去[スギサル]を今の昔にしたるものな
るゆゑ。今又[アラタ]これを改[アラタ]むるにハ及[ヒ]ばず。そのまゝ
にしるすにハ。その元[モト]をしるのみ
○十二月の和名[ワミヤウ]ハ
正月を睦月[ムツキ]といひ　二月を衣更着[キサラギ]といひ
三月を弥生[ヤヨイ]といひ　四月を卯月[ウヅキ]といひ
五月を皐月[サツキ]といひ　六月を水無月[ミナヅキ]といひ
七月を文月[フミヅキ]といひ　八月を葉月[ハヅキ]といひ

九月を　ながつきといひ
十月を　神無月と云
十二月を　しはすと云
此和名の如くしらるるとなり。周の八の
月は　今の九月を正月とせり。今の
月建に　あてはめざるべからず。古の月建より
あてはめば　和名にて　あてはめて　今の
十一月　陽　子　古の　正月　和名　睦月と云
五陰
月を睦月といふ。年の初月の初日の初なるを

祝して貴き賤き共に行かひ。貴賤なく
ともゆるむつび月といふ。これ元月にても
寅の月にても　月を一月といふべき
を正月といふ　論語大全に陳氏曰不問一月曰
正月王者居正之義　この為にて年こそ
あらたまるべけれ。新よりさきの
とむらくこと男女。男は初を正しく
せざれば　物せざるなり。故に正月と號して
民を正しくこれをもつて義なり

今の十二月　二陽四陰　古の巳　二月　和名衣更着

月と衣更着こいとは。衣を更へ着る時節なれば。雨もち。卯の月そは雨ばかりやうなり

今の正月　二陽三陰　古の寅　正月　和名睦月こと云

月を睦こいとは陽和いちして万物生ずるなり。やはらひこいとを要して睦こと云

雨もち

今の二月　四陽二陰　卯　古の　二月　和名卯月こと云

月を卯月こいとは。卯の月なるゆへ卯月と云。雨もち。三月を卯月こいとは。卯の花さくころにあたれば。

今の三月　五陽一陰　辰　古の　五月　和名皐月こと云

月を皐月こいとは。苗の種をまくゆへ

茅月こゝなり。初冬にて茅を茅と唱へるなり。
茅菌 茅陽 茅氣なり。是人皆
早菌こ書ハ誤りなり。湯をあこゝなり誤
して。飯の湯を茅陽こゝなり。酒ハ全く茅
の氣なるゆへ茅氣と初冬なり。東國にて
茅のぬりを茅屋こゝなり。なほ茅月こゝも
よく唱へなり。

今の
四月 ䷀ 純陽 巳 古の
六月 和名 水無月

月を水無月こゝハ。此月ハ純陽にて陰なき月
ゆへ水無月こゝなり。水ハ陽。水ハ陰なり。なほ水無
月こゝハ陰無月こゝなるなり 又四月純陽よ
て卦皆陽爻の月なるゆへ皆陽爻の月とゝを
暑にて皆月こゝなり

今の
五月 ䷫ 一陰 五陽 午 古の
七月 和名 蒲月

月を蒲月こゝハ。古ハ蒲月百草を蒲ハ万病癒
疫をまもるゆへ。山野に出。百草を蒲

ものなるに因て端月こいうなり荊楚歳時記ノ
五月五日民間ノ端午草ヲ採ル五月八今ノ五月
なり古の七月なり。今婦人ノ菖蒲ヲ頭上ノ
挿ミ又菖蒲湯ヲ沸シテ浴スルヲ生月ノ
ト。ヲ月ニ月八法華ノ八講ヲ行ヒ
ヲ納ル月なり又月八菊ヲ植ル月なるか
牛馬に因て端午ヲ祭ル也因端月ヲ異シテ
端月こいふる説也なり又成説ノ文月と
いふ七夕に加て文ヲ書くなるか

文月こいふなり 今ノ世七夕のようやまりて
ものを乞ふことなるもなり。後漢書ノ武丁が
高云ふ婦人ノ女ヲ伴て天上の列宿ヲ汚穢
ものなり。今ノ七夕のやうなるようこ思
ハ淺ましきなり。元ヲ考ルこいふハ因織機
織こいふ和訓なるヲ異シて。カヲ考ルこいふ
牽牛織女こいふて。ようこれを。牽牛ヲ
ハ因ヲ作るようら。織女ハ機ヲ織るようなり。天
の列宿ノ牽牛織女の名なるに因てこれを

あるこしらへやまり為るものなり。七月七日
八衣合祭のこりと祝し祭りの節句あり。彩に菊
蒲よりぶと菖。田作機織を祝ふてなり。これ
衣合祭のこりとも切に祝日なり。これ秘秘の
故実なりとぞ。もくのこと厳重なる節句也
とぞ。今世俗のいとなたの祝よりて世
句と怪しくおりやうにたちもち考へ
今の六月 ䷀ 二陰 四陽 未 古の八月 和名 葉月

月と葉月こいとは。草木葉こぼりこげり
ひく。実ふ月出度ゆる月也。葉月といと
なり酉の月とはたるなり
今の七月 ䷋ 三陰 三陽 申 古の九月 和名 長月
月と長月こいとは。月の秋の初なるゆへ
秋長月こいとは。ひさしく夜を長しなり
長月こいなり。世長うせて倍よりくの
文字をかうそひくやまりまりと。

後は幾久しかるなり。今文政の月にハ遠の義
時節なるゆへ幾久しと勇にしるものなるべし

今の八月 ䷓ 二陽四陰 酉 古の十月 和名 かみなしづき 上亥月

月と上亥月こゝハ八月秋の真中なる月の気
上なるゆへ月の月にあたる月ハ亥こゝなり
て上亥月といふ。上亥月の略じなるなり

今の九月 ䷖ 一陽五陰 戌 古の十一月 和名 しもつき 霜月

月と霜月こゝハ八月の中と霜降こゝく霜の
とゝ初る月なるゆへ霜月といふ。よく霜とも

今の十月 ䷁ 純陰 亥 古の十二月 和名 しはす 支地

月と支地こゝハ八月十二支の終なる故支地
こゝなり。冬極こゝハ陰の至りなり。霜月と云
師走といふハなるべし

しのゝゝ古の月建にして十支にたるまゝ
高きゆへ今の月建ハ十二支にあたるもの多し。九六二

釋尊出生の日建寅といひ佛滅の日建酉とい
くこと見えたり。和尚の孫義を考て今の月建酉
月を以て稽古するに疑ふべ〳〵弱
○なる書に中華もろもろの人のとりくむ人なり。いの
なる考のよいは 善て四中華八方地の中國のみ
天氣ものうふ北精こ海やうなり。故に高ふる方地に名人
出る。西南は人多く道理なり。東西の人は人と智人
と義こと。年の男と月のせぬとていむの八体ごと。
天氣のなりの人なるとうごとと和べきこと。中華の

人と聖賢と師とし。日本人と聖賢と師とし。日本人
のみなもの人もまたまるなり。義
あるとそだれりこせば。唯智仁勇の德あると
そだれりこなるなり。中華の師國る
天理の自然と和べ。西域の佛は人間の神
と和とばうる。我国の佛と和て人
の國人と天とするとと和とせで。其ゆや
まりとるべ。こなり。これはまぎ性ごと
ざれの增なり。さこりれば人なりとひ。さる

よなり。悟りてハ神道の主人を儒道の主人も仏道の主人も元一にして孔子釈迦も主人へ帰せ
さゝりてハ神道も儒道も仏道もなく天道なり。
中華天竺日本ハ表にして道をなつけ名
のみにてさゝりてハ三国一世界一国なり。
天地を父母とする人中華の人天竺の人日本人
同胞にして兄弟なり。人我の無ぞそなはるや。
三国の方地ハ別にして大道ハ一筋なり。かゝの
こゝに表ことにかゝるもかゝるなり。

さゝらざるゆゑよりてこの差。悟りたる
人と平人とハ性命の理よりなるすゝ
なりこゝろ也。身分量の不平なる所なり。
たとへバ山の井の水ハ海の水よりハ
少なくなりとゝ雖ども海ハ量ひろさ高に
大奥小奥生ず所と雖ども無さゝるとゝ
甚多くもゝ。
中のこゝろ。さゝりたる人のハ一見空
のみ。その廣大なるすゝ一見天地中山海の

ものゝ心をすてゝ後ちるべき
なり。神道儒道ハ世人まなびてもまた
人多きゆゑ。ぞんじてこれをもて佛道伝ハの
人多しといへども。俗家にして方便説よ源。
或ハ神説法を聴く。真の道ものなるべし。
〻常をしらの多し。今の僧の説法をきく
ハ。真の道をしるものハ少し。多くハ冥加
銭をとるのみにして。多くハ冥加
大徳国師田道船ものゝぞんバ他のためよ

説法せどこゝろ。道船ハ本来面目を自己
の佛性をさとらざる自己ハ説法ハものゝ
すこのものハ実なるべ道船ものゝ
ものゝ冥加銭をとるためよる説法と神
説法こゝろ。多くハものゝ神説法をきく
たゞひ多きゆゑ。書多くハ佛家をさとる
階梯をるせり。惟まものの道をさとり至善
のゝ

安永二癸巳年九月既正

京堀川通綾小路下ル丁　錢屋庄兵衛

江戸通本石町十軒店　山﨑金兵衛

書林

大坂心齋橋筋傳馬町　柏原屋佐兵衛

同　壹丁目筋元敷町　松屋久左衛門

国立国会図書館　タイトル『俗三教裸話 : 2巻』　請求記号 159-M696z　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俗三教裸話 : 2巻』 請求記号 159-M696z

ガラス使用